

平成 29 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題名

維持透析を行う患者が透析を受け入れるために影響した要因

2. 研究代表者及び所属

山井由香里 長岡赤十字病院 人工腎センター

3. 研究メンバー

山井由香里¹⁾ 田邊恵子¹⁾ 外山朋子¹⁾ 小林綾子²⁾ 高頭久美子¹⁾ 山崎肇¹⁾

1) 長岡赤十字病院 人工腎センター 2) 新潟県立看護大学

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 小林綾子

5. 研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	40,216	0	24,672	13,159	78,047

6. 研究の概要

【目的】 本研究目的は、維持透析患者が透析を受け入れる為に影響した要因を明らかにすることであった。

【方法】 1) 研究デザイン：質的記述的研究 2) 対象・期間：対象は、同意を得た維持透析患者 3 名で期間は H29 年 8 月であった。3) データ収集方法：半構造的面接を実施し、面接内容を IC レコーダーに録音し、逐語録を作成した。4) 分析方法：逐語録から透析を受け入れた要因を抽出し意味を損ねないようカテゴリー化した。5) 倫理的配慮：所属施設の倫理審査委員会の審査を得たうえで行った。

【結果】 参加者は、透析年数 2 年の 60～80 歳代の男性 3 名であった。透析を受け入れるために影響した要因は<保存期に、透析の知識を得て心身の準備をした><透析を納得して受け止めようと決心した><透析導入前の症状が無くなり体調が改善した><透析導入後自分なりに食事管理ができています><透析をする生活に慣れ自分のやりたいことができています><周囲の人の気遣いを感じ必要とされている><透析仲間と語る場がある><前向きに安心して透析が受けられている>であった。

【考察】 保存期の透析の知識や心身の準備状況や、透析導入後の体調の改善が透析を受け入れることに影響していたと考えられた。

【結論】 維持透析を行う患者が透析を受け入れる為に、8 つの要因が影響していた。保存期に十分知識が得られるよう支援することや透析導入後に体調の改善が感じられるような看護が重要である。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有（新潟透析医学会学術集会・長岡赤十字病院院内看護研究発表会）